



新グループホーム イメージパース

婦負の野




 ISO9001 認証取得

〒930-0143
 富山県富山市西金屋6682番地
 社会福祉法人めひの野園
 TEL.076-436-0270
 発行責任者 中田 匡
 (表題書)
 高岡市巾川上町3の31
 (故) 社浦 荻水先生



月1回のグループホーム建設委員会では、保護者会や園職員、設計事務所の皆さんが意見を出し合い、より快適で安心して暮らせる新しいグループホームの設計が進められています

新しいグループホームの建設に向けて

娘は養護学校を卒業してから「めひの野園」にお世話になり、毎日張り切つて園に通っています。数年前に園から「将来の生活設計について」のアンケートがあり、その選択肢にグループホーム入所が含まれていました。通園するようになって十数年たち、娘の弟たちも次々に独立し、「親亡き後の生活」がどんどん近づいています。入所施設は減少し、自宅で暮らすにはサポートに限界があると感じています。弟たちには各々の仕事や生活があり、必要な支援は望めません。「いつかはグループホームのような、娘が安心して住める場所を、親である私たちが見つけてやらなければならない」と思っていました。具体的な方法を探ることもしていません。

そんな折「新しいグループホーム建設」というお話を聞き、「このチャンスをぜひ活かしたい」と思い、説明会に参加しました。何度かの会合の後、建設に向けて順次準備を進めていくことになりました。2017年に開設された第一期の「つまま寮」に続いて、20〜40歳の女性7名での第二期グループホーム建設に向け、現在は補助金申請中の段階です。

利用者の個別性を考慮し、娘たちが無理なく新生活に馴染み、暮らしていきやすいように、また世話人さんがケアしやすいように、園や担当職員、保護者会、設計事務所のアドバイスを頂きながら、ほぼ毎月、月一回の会合をもって設計を進めています。完成した寮での生活を継続していけるように、家庭でも正しい習慣づけをし、親の過干渉を控え、生活全般の見直しを考えているところです。

福田 政子（ウォーム・ワークやぶなみ保護者）

めひの野園の今日のニュースと明るい明日を紹介します!

あしたのめひの

第14回

ISO9001推進委員会

～信頼に値するサービスを提供するために～



「ISO認証を取得しているということは、信頼に値するサービスを提供している証でもあるんですよ」と話す中村委員長

めひの野園には、職員によって編成された11の委員会があり、それぞれの課題に取り組んでいます。今回は、「ISO9001」に則った改善活動を推進しているISO9001推進委員会の中村聡委員長に話を聞きました。

Q まず、「ISO」とは何かを教えてください。

—「ISO」とは「国際標準化機構」のことで、本部はスイスにあり、世界の様々な「標準」を定めている団体です。ISO認証を取得するためには、定められた「標準」が保たれているかの審査に合格しなければならず、組織のルールや仕組みが整っていることが必須になります。

Q 「ISO」を取得することには、どのようなメリットがあるのですか？

—「ISO認証」を継続していくためには、一度審査に合格するだけでなく、

定期的な審査を受けなければなりません。そのため、「ISO認証を取得し続けている」ということは、世界レベルの基準を満たしており、信頼するに値する団体・組織とみなされるのです。

Q 障害者福祉の分野でISO認証を取得することは珍しいと聞きましたが、？

—めひの野園では2003年3月に認証取得し、それから現在まで継続し、有効に機能させています。福祉の分野でも、施設の中の食堂や工場の部門では取得されてきたようですが、生活支援、職能支援



職員の意識を高めるため、「ISO認証」は全ての事業所に掲示されています

の部門ではめひの野園が日本で最初ですね。私たちが取得したISO9001とは品質管理に関する規格なので、どうしても文言が工業用の表記になってしまします。それを福祉の分野に適した言葉に置き換えるのにとっても苦労しました。

Q なぜめひの野園はISO認証を取得することになったのですか？

—取得する以前は、職員一人ひとりがそれぞれの考え方や思い、視点で利用者支援を行っていました。色々なことを試す時期だったのかもしれませんが、利用者のためには職員が同じ方向を向いて支援に取り組む必要がありました。そこで「支援をマニュアル化すればもっと良くなるのでは」と思われた園長が、ISOを取得することを決められたのです。

Q ISO取得を目指し、マニュアルの整備に力を入れていた時期が確かにありましたね。その後ISO認証を取得して、どう変わりましたか？

—まず、園の「品質方針」が決まり、全体の目指す方向が分かりやすくなりました。職員間でこのような共通認識を持つ



「PDCA」の「C」(check:評価)として内部監査を行っています

るようになったのはISOの成果だと思っっています。園全体の方針が決まることによって、事業所、委員会、そして職員一人ひとりのすべき事が明確になり、具体的な計画も立てやすくなりましたね。

ただ、認証取得当初と比べ、ISO自体の考え方も変わってきています。最近ではマニュアルをそれほど重視せず、「PDCA(計画・実行・評価・改善)のサイクルが回り、継続的な改善が行われている体制かどうか」が重要視されてきています。

Q 今後の課題や展望は？

—ISOの新たな視点として「リスクと機会」「利害関係者」があります。委員会としても危機管理の徹底を図るため、事業所ごとにリスクを洗い出しているところです。また、それぞれの事業所にとって「顧客とは誰なのか」を考える機会を提供したいと思っています。それは利用者であったり、商品を買って下さるお客様だったりするわけですが、それぞれに提供されるサービスが今以上に向上するように、委員会として働きかけていきたいと思っています。

(記・広報委員会 柴田 香菜江)

2019

りんどう祭



天候に恵まれ、会場は多くのお客様で賑わいました

地域の皆様との交流が一層深まることを願って毎年開催されている「りんどう祭」。11月3日(日)・祝に開催された2019年度りんどう祭は天候に恵まれ、爽やかな秋空の下、多くの方に足を運んでいただき今年も大盛況となりました。

会場では様々なステージ発表が行われたほか、毎年人気の模擬店メニューや地域の商店からの出店、また、移動販売車での販売などもあり、多くのお客様で賑わいました。

「喜楽太鼓」と「どんぐり山学童クラブ」のコラボが実現！

アトラクション会場の体育館でオープニングを飾ったのは、めひの野園の和太鼓サークル「喜楽太鼓」の演奏でした。これまで地域の様々なイベントで演奏を披露していますが、今年はいどんぐり山学童クラブの子どもたちと一緒に演奏するというコラボレーションが実現しました。



会場に響く「喜楽太鼓」と「どんぐり山学童クラブ」の和太鼓演奏

「練習では、曲の出だしや終わりに『ちやっぱ』という小さな楽器を使って合図を出し、子どもたちが演奏しやすいように工夫しました」と話すのは、和太鼓教室の講師を務めている山橋支援員。「子ども

たちと喜楽太鼓メンバーを合わせた12名で一生懸命演奏した一体感は、何物にも代え難い素晴らしいものでした」という言葉通り、会場に響き渡った演奏はとても勇ましく、堂々と迫力あるものでした。

また、地域の中学校や高校の生徒たちの息の合った合唱や吹奏楽演奏、パフォーマーによる楽しいショーなども行われ、会場を温かく盛り上げてくれました。

模擬店も大盛況！

模擬店会場では、飛騨地鶏の串焼き、唐揚げ、カレー、椎茸のホイル焼き、ビーフシチュー、パン、菓子などの定番の人気商品や、りんどう祭でしか味わえないメニューなど、めひの野園ならではの美味しいものが勢揃い。また、保護者の皆さんが作るお好み焼きや焼きそば、地域の商店から出品される商品も毎年大人気です。



揚げたてアツアツの新メニュー。営業・販売課の「串揚げ」

そんな中、今年新たに登場したのが、営業・販売課の「串カツ・串揚げ」。オリジナルメニューの『レンコン肉巻き』や『ニンク肉巻き』は、行列ができるほどの人気ぶりでした。

バザーが復活！

春の苑1階では3年ぶりにバザーが開催されました。台所用品やタオル、洗剤などの日用品をはじめ、多種多様な品が数多く販売されました。「思わぬ掘り出し物が見つかるかも?！」と、開店前から大勢の人が列を作り、所狭しと並べられたお値打ち商品の数々を、皆さん思い思いに手に取っておられました。



バザー会場では、バラエティに富んだ品々がいっぱい

今年で36回目を迎えたりんどう祭。めひの野園を多くの方に知っていただくイベントとして続いています。

令和という新しい時代になっても、地域の方と共に歩み、地域の皆様に求められるよう、今後も一歩ずつ歩んでいきたいと思えます。

(記・広報委員会 野嶽 眞希子)

むれ たけ りょう

祝! グループホーム群竹寮 30周年記念パーティー



「福祉ホーム」としてスタートし30年。
地域移行の先駆けに

1990年(平成2年)に開設された、めひの野園のグループホーム「群竹寮」が、今年で30年目を迎えました。この節目の年を祝う記念パーティーが10月19日(土)に呉羽ハイツで催されました。

このパーティーには、30年間でご縁のあった方々や、利用者さんたちが作業している事業所の職員が招かれました。そして群竹寮の利用者さんたちは、普段あまり着ることのない背広や着物で、ちよっぴりおめかししての参加です。

パーティーは、めひの野園の和太鼓サークル「喜楽太鼓」の演奏で幕を開けました。「群竹寮の記念すべき節目のパーティーということで、演奏にも気合が入りました」と話すのは喜楽太鼓の山橋支援員。さらにこの日は、「ミューザ高岡クラリネットアンサンブル」の皆様にも演奏して頂きました。数々の大会で金賞を受賞し、様々なイベントで活躍されています。当日は3曲の演奏に加え、アンコールにも応えていただきました。利用者さんの中には、聴き慣れた音楽が流れると自然に手拍子をしたり、体を左右に動かしたりと、ノリノリな方もいました。



群竹寮の利用者さんのデュエット

利用者さんたちが大好きなカラオケ大会が始まると会場は大盛り上がり。普段は物静かな利用者さんも、マイクを握ると意外な(?)美声で歌い上げ、これには普段接している職員もビックリ。



「喜楽太鼓」(写真上)、「ミューザ高岡クラリネットアンサンブル」(写真下)の演奏が会場を盛り上げました

そして、式がクライマックスにさしかかると、長年世話人を続けてこられた廣田さんに、サプライズで表彰式と花束贈呈が行われました。これまでずっと利用者さん第一に接して来られた廣田さん。いつも健康管理を考えて美

群竹寮は「それぞれの特性に合った生活の場を作り、やがては地域に溶け込んで生活できるようにしてあげたい」という前理事長の想いで建てられました。当時は「福祉ホーム」と呼ばれ、ここで自立に向けた練習をしてから地域へ移行するという、「段階的な支援の場」でもありました。それからめひの野園には、さらに7棟のグループホームが増え、現在も新たなグループホームが建設されようとしています。



中田園長から感謝の花束を手渡され、感極まる廣田さん

味しい料理を作ってくださいます。そんな廣田さんのことを、群竹寮の皆さんは親しみを込めて「かあちゃん」と呼んでいます。「かあちゃん、これからよろしくね!」

(記・梨の木苑 中村 愛)

行楽の秋を満喫しました!

めひの野園では、秋の行楽シーズンになると毎年事業所ごとに旅行に出かけます。楽しみにしている利用者さんも多く、年間行事の中でもメインイベントの一つになっています。そこで今回は、利用者の皆さんに旅行をもっと楽しんでもらうための配慮や支援を紹介します。

作業センターふじなみ

行き先…信州方面

作業センターふじなみでは、事前に旅行会社から3つのプランを提案していたとき、利用者さんに行き先のアンケートを採りました。利用者さん達の会話からは、行き先がどこに決まるか楽しみにする声が聞かれました。そして決定した行き先は「信州方面」。



現存する「五重の天守」は、姫路城と今回作業センターふじなみの皆さんが訪れた松本城の2城だけ。その実物を見られて感激する利用者さんもいました

みしまの工房

行き先…群馬方面

みしまの工房秋の旅行の目玉は「群馬サファリパーク」。バスに乗ったまま園内を見学し、車窓のすぐ側まで近づいてくるトラやライオンは迫力満点でした!

また、みしまの工房の旅行では、「旅のしおり」を工夫し、日程や訪れる見学先はもちろん、そこで販売して



窓のすぐ外はライオンの群れ。他にもトラやサイ、バイソン等を間近で見学することが出来ました

いわせのA棟・B棟

行き先…五箇山方面

グループホーム「いわせの」の秋の旅行では、身体障害を伴う利用者さんの移動にはほとんど車椅子を使っています。行き先の旅館はバリアフリー化されていて、館内の移動をスムーズに行えました。また、咀嚼が苦手な方には刻み食やお粥を用意していただき、安心して旅行を楽しむことが出来ました。

(記・広報委員会 室澤 尚史)



バリアフリーの旅館で移動はスムーズ。食事にも配慮していただきました。

群竹

muretake

めひの野園職員の
雑感コーナー



作業センターふじなみ
村上 祥子

私には、かれこれ15年近く続けているスポーツがある。それはビーチボールだ。浜辺でビーチを着て行うほうではない。我が富山県朝日町発祥の、体育館で行うビーチボールを使った4人制のバレーボールだ。町内の大会に誘っていたのがきっかけで、現在はクラブチームの練習に週2回程度参加している。私にとって楽しくリフレッシュ出来る、とても大切な時間だ。

その大好きなビーチボールにもルールがあり、審判も存在する。A級からC級の審判区分があり、私自身はB級審判資格までは取得済みだったが、今年はA級資格に挑戦した。ここ何年も資格取得の勉強などしたことがなく、暗記能力の低下が著しい今日である。勉強時間もままならず、ほぼ一夜漬け状態で試験当日を迎えた。まずは筆記試験。覚えた文言を二気に書こうとするあまり、シャープの芯をポキポキ折るながらも、なんとか時間ギリギリに書き終えた。次は実技試験。審判台に上がると緊張で口がカラカラになって、くわえた笛が唇にくっついてしまいそうだった。

いろいろあったが、なんとか合格することが出来た。これでジャパンカップ富山大会の主審が出来る。A級バッジを胸に、公平・正確な審判でビーチボールの普及・発展に努めていきたいと思う。また、仲間や家族への感謝の気持ちを忘れずに、これからも楽しく続けていきたいと思う。

めひのスポーツ special 野球部座談会

～今シーズンを振り返って～

めひの野園野球部は今シーズンの全日程が終了した。個人成績では久郷選手(作業センター)がチーム内首位打者、室選手(同)が呉羽リーグ最多安打、そして毎年の中田監督が選出するゴールデングラブ賞(チーム内最優秀選手賞)には中塩選手(同)が輝いた。中塩選手は、呉羽リーグ最多勝利投手賞と合わせダブル受賞となった。



チーム内 MVP は中塩映選手 (作業センターふじなみ)



個人賞を受賞した3選手(写真右から久郷選手、中塩選手、室選手)に、主将の室澤選手(写真左手前)を加えた4人で今シーズンを振り返った

室澤…それでは今シーズンを振り返って座談会を始めたいと思います。まずはチームの4番を差し置いて、チーム内の首位打者を取ってしまっ(？)久郷君です。室…大事な試合で足がつつたのに首位打者に輝いた久郷君！(笑)久郷…いや、あの試合(福祉野球北陸予選)では、自分だけでなく怪我人が相次いでいて、「自分の代わりは誰もいない」と痛みをこらえて最後まで頑張ったんですよ！



チーム内首位打者 久郷 凌選手



呉羽リーグ最多安打 室 賢一選手

中塩…1日で3試合も投げ切ったのは初めての経験でした。最後はもう、後のことは考えず、「ただ1球を投げる事」しか頭にありませんでした。

室…そんな中塩の姿があったからこそ、周りのみんなも「ピッチャーを楽にするぞ！」と、必死でカバーしようという気持ちになったよね。室澤…決勝戦の相手は、これまで散々苦戦を重ねてきた石川県代表の「陽風園」。以前、全国大会で準優勝したこともある強敵を相手に、負けはしたものの自分たちの全てを出し切った試合になりました。室…選手の怪我が続いて、最後は還暦を迎えた園長までが打席に立ったからね！久郷…しかも、惜しくもファールではあったけれど、しっかりミートされていました！(笑)中塩…そこで園長が言われたのが、

「おい！相手のピッチャー、(球速が)そんなに速くないぞ！」だって！(笑)久郷…でもそこで選手みんなが「俺たちはまだまだやれる」という気持ちにさせられましたよね！室澤…言葉では言い表せないような不思議な高揚感が生まれたね。これは技術的なものではなく、チームみんなの気持ちが一つになったからじゃないかな。室…今年の流行語の「ワンチーム」と言ってしまったら安っぽいけれど、それでも今年の「めひの野園野球部」は間違いなく「ワンチーム」だったと思う。



チーム一丸で戦った呉羽リーグは次勝という結果に

室澤…今シーズン当初は「今年は大丈夫なのか？」と思っていた「呉羽リーグ」も、蓋を開けてみれば結果は2位でした。久郷…シーズン序盤は、これまで負けたことのなかったチームに負けてしまったり、チームの主力が

大怪我をしてしまったりで、「今年は何もかも」という思いは確かにありました。

室…そんな意識が変わったのが、福祉野球北陸予選での「試練」だったのかもね！(一同笑)

室澤…確かにそれで以降は、これまで苦戦してきた強豪チーム相手にも、何故か楽な気持ちで試合に臨んで勝利できました。

中塩…気持ちの上で明らかに変わったのは、強豪チーム相手にも「ノーノー」(ノーヒット・ノーラン)を目指して投げるようになったことです。(一同「おぉー」)

室澤…こんなに頼りがいのあるエースを擁するめひの野園野球部の来シーズンの抱負ですが…

久郷…自分は今、打撃フォームの改善に取り組んでいます！スタンスをややクローズにして、外角球への対応を…。中塩…おっ！今までの話の流れを読めよ！

室澤…個々の話じゃなくて、チーム全体の意識が変わったという話やんけ！

室……というわけで、来年はぜひ、万全の態勢で大会に臨み、強豪に勝って全国大会出場、いや！「全国制覇」を成し遂げたいと思います！

室澤…あ、室さん！それは主将の自分が言いたかったセリフなんですけど…。

しいたげくん

現場のみなさんに
福祉の魅力を何う
突撃レポート!!
今日は、
みしまの工房
はたおり班に
おじゃましています。

昔話に
出てくるような
はたおり機が
何台も並んで
いるよ!!

こんにちは!!

みしまの工房
はたおり班・
生活支援員の
島田葉奈
です。

葉奈さんはどうして
めひの野園での仕事を
目指したんですか?

じつは私、
めひの野園の
パン工房、
「やねのうえの
ガチョウ」の
向かいの
K高校出身
なんです。

学校帰りによく
おいしいパンを
買っていたので
「この利用者さんで
どんな人なんだらう」
って
気になっていました。

その後
福祉短大に進学。
授業で見たのが、
なんと
めひの野園のDVDでした。

そこで初めて、
「やねのうえの
ガチョウ」の
利用者さんが
「自閉症」なんだと
知ったんです。

利用者さんたちが
それぞれの
得意なことを
活かした作業を
仕事にして

やりがいを持って
取り組んでいる様子を見て
感動しました。

めひの野園での
実習先は
「みしまの工房」
でした。

こだわりの強い利用者さんも、
単純作業に向くという強みも
あります。
牛乳パック切りや紙ちぎりを
ていねいに大量にこなします。

それが「再生和紙」になり、
素敵な商品として
活かされていく様子に
再び感動!!

今後は、
こんなにおもしろい
「福祉の仕事」を
自分より若いひとたちに
伝えられるような取り組みを
していきたいと
思っています!!

今は、その
「みしまの工房」で働いています。
利用者さんの得意なことを、
どう仕事に活かしていくか
考えることが
やりがいです。

「自閉症のひとの
楽しい世界」に
どっぷりつかっています!!

いいね!!

ご寄付ありがとうございました。

(2019.9.1~11.30) 敬称略

- 高岡第一学園 高岡市
- 富山福祉短期大学 射水市
- 中川 和子 中新川郡
- 佐藤理容院 富山市
- 群竹寮一同 富山市
- 金城大学 石川県白山市
- 西金屋自治会 富山市
- 松岡道子 富山市
- 森新樹園 富山市
- (特非)愛和報恩会 富山市
- 高見悦子 富山市
- 亀山知己 富山市

寄付金振込口座番号
 北陸銀行呉羽支店 店番号120
 普通預金6077230
 社会福祉法人 めひの野園



来訪者

(2019.9.1~11.30) 敬称略

- テンプスタッフフォーラム(株) 伊井 洋之
- (株)スタッフサービス 岩崎 圭
- テンプラス(株) 稲山 稜平
- 富山医療福祉専門学校 金谷 潤子
- (株)鈴木一級建築士事務所 酒井 武志
- (特非)かもめのノート 富野 正宏
- マンパワーグループ(株) 小林亜紀子
- 日本農業新聞 早川 誠
- 中村印刷工業(株) 横山 英二
- 北銀リース(株) 北川 琢哉
- コーヒー&レスト 小馬 山澤 房子
- 社会保険労務士法人アドバンス富山 大田 欣和
- (福)新潟太陽福祉会 栄 靖
- 障害者支援施設 太陽の村 大滝 勝英
- (二社)富山県労働者福祉事業協会
- 魚津市ボランティア連絡協議会
- 北陸銀行呉羽支店 高橋 孝一
- 富山新聞社 富沢 岳
- 高木自治会 中村 勇
- (福)おおすぎ
- 障害者支援施設れんげの里 島 隆雄
- 富山県立しらとり支援学校 橋本 圭輔
- 北日本新聞社 松澤 拓也

後援会名簿

(2019.8.11~11.30) 敬称略

- 品川 美保子 富山市
- 大矢 千晴 富山市
- 青木 良成 富山市
- 浅井 貴代美 富山市
- 石政 明美 富山市
- 金川 弘行 富山市
- 川口 智浩 富山市
- 杉木 良久 富山市
- 杉本 明久 富山市
- 富堂 聖子 富山市
- 中村 有一 富山市
- 成田 昭二 富山市
- 西 孝浩 富山市
- 野村 利美子 富山市
- 廣田 雅俊 富山市
- 水口 良一 富山市
- くれは製菓 富山市
- 鍋島 朋子 下新川郡

後援会振込口座番号
 北陸銀行呉羽支店 店番号120
 普通預金6077230
 めひの野園後援会

編集後記

令和元年9月、我が家に長男が誕生した。その長男は現在、8歳と4歳の姉にまるでおもちゃのように扱われ、生後3カ月にして苦難の日々を送っている。ほづたをつままれたり、無理やり抱き上げられたり…。そんな彼が唯一ひと息つけるのは、2人の姉が「ユーチューブ」を夢中になって観ている時くらいなのだ。2人の姉がパソコンの画面に釘付けになっている姿を見ると「時代は変わったのだな」と実感する。自分が子どもの頃は、好きなアニメの放映を「あと10分、あと5分…」と楽しみに待っていたものだが、娘達にそんな経験はほとんどない。自分が好きな時に好きな動画を観られるのだから、放映までの時間など待つ必要がないのである。長女は昨年、算数の時計のテストで散々な結果だったが、どうもこれが原因なのではないかと思えてならない。

つまらない話になってしまったが、私自身は一人っ子で、子どもの頃は両親と3人で暮らしていた。20代で母親を亡くしてからは、父親と2人での生活がしばらく続いた。無口な男2人で迎えていた正月に比べると、今年はいままでに賑やかな年明けで、笑いあり涙ありの色彩豊かな正月を送らせてもらった。

令和2年がスタートし、本誌においても様々な「声」をお伝えし、賑やかな誌面を制作していきたいと思っている。

(岡崎 記)